

農林水産研究の推進（現場ニーズ対応型研究） 子実用とうもろこしを導入した高収益・低投入型大規模 ブロックローテーション体系の構築プロジェクト 【研究概要】

1. 研究目的

子実用とうもろこしを導入した輪作による新たな高収益かつ低投入型のブロックローテーション体系を構築することにより、持続的な農業生産体系を確立し、作物の安定供給および食料自給率の向上に貢献することを目的とする。

2. 研究背景

現在、水田における畑利用期間の増加による収量や地力（土壌肥沃度）の低下や、輸入に多くを依存する麦、大豆および子実用とうもろこし等の飼料作物の価格高騰や不安定な供給環境への懸念が拡大している。

このため、国内におけるこれら土地利用型作物の持続的かつ安定的な生産体系の構築が喫緊の課題となっている。



3. 研究内容

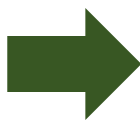
- ①従来の輪作体系に、子実用とうもろこしを導入することによる生産性向上効果を明らかにしつつ、より一層の生産性向上を可能とする施肥体系や残渣処理・耕うん方法等の圃場管理技術を開発・実証する。
- ②子実用とうもろこしの生産拡大に対応可能な乾燥調製・流通体系を構築する。



4. 達成目標・期待される効果

達成目標

- ・生産性の向上により、経営体全体で収益5%増
- ・堆肥等の有機物の活用により、化学肥料の使用量を30%削減



期待される効果

- ・みどりの食料システム戦略で目指す「高い生産性と両立する持続的生産体系への転換」を加速化する。
- ・競争力のある経営体育成に寄与する。

研究代表機関：国立研究開発法人 農業・食品産業技術総合研究機構

共同研究機関：JA全農、JA古川、JA全農北日本くみあい飼料（株）、東北大学、宮城県、福岡県